

優良マークで適正化

全国運転代行協会「安心できる事業に」

運転代行、運行管理業界で総会

公益社団法人・全国運転代行協会(丹澤忠義会長)は11日、中央区の鉄鋼会館で第18回通常総会を開催。昨年度から取り組んできた優良事業者の評価認定制度の実施とP.R、適正料金の算定を目的とした代行料金の実態調査などを柱とする2013年度事業計画を決めた。優良認定の実効性を高める方策などについて活発に討論した。

丹澤会長はあいさつし、「3月末には(随伴車両表示の)ペイント化がスタートしたが、全国の意見をまとめる。利用者、飲食店、地方開き、事業・決算報告を承認した。優良認定制度に申し、原和夫専務理事が説明し、「両団体で分担し、約8900の全事業者に案内を送る。利用者が、飲食店、地方開き、事業・決算報告を承認した。優良認定制度に申し、原和夫専務理事が説明し、」



総会の冒頭、あいさつする全運協の丹澤会長(左)と運行管理協会の大槻会長(右)



とめると、徹底していないと聞く。行政にお任せするだけでなく、業界としても各地域で適正化に目配りする必要がある。認定制度では認定委員会を立ち上げ、運転代行振興機構と共に取り組んでいる。優良事業者のマークは11月までには配布するので、年末に向け安心できる運転代行業へのステップとしたい」と述べた。

「認証制度」スタート

日本自動車運行管理協会「安全・安心に誇りを」

日本自動車運行管理協会(大槻光雄会長)は12日、千代田区のホテルグランドパレスで第21回通常総会を開き、事業・決算報告を承認した。質の向上を目的に今年度より、各社の運行管理責任者を対象とした「運行管理士認証制度」がスタートし、今年度中に全国8地域で認定講習を開催することなどが報告された。役員

の選任で、任期中で退任した佐藤亮常務理事(大新東)に代わり、白倉隼氏(同)が新常務理事に就任した。大槻会長は総会後の祝賀会であいさつし、「就任時に掲げた共存共栄の理念を生かしつつ、新しい価値を創造していきたい。その一つが独自の『運行管理士認

目立たせる表示法や、大きさについて意見が相次いだ。ホームページで優良事業者を検索できるシステムも構築する。事業計画では、ペイント化の次の問題は料金との認識の下、適正な原価に基づいた料金を検討するプロシ

エクトを立ち上げ、第1弾として料金の実態調査を実施することを決めた。警察庁の小倉隆久交通局長、国土交通省の山崎寛自動車局旅客課旅客運送適正化推進室長、二村博三東京交通新聞社長が来賓出席した。

とつなぐのがわれわれの使命」と呼び掛けた。事業報告では、運転士専門校の運営や運転サービスクンテストなどの活動を報告。事務所移転による経費削減も報告された。事業計画では、入札制度に関して総合評価方式の定着を図ることなどがうたわれた。

証」資格制度だ。すでに大阪と東京で実施した講習会で、講師を務めたが、受講者の熱意に勇気をいただいた。安全・安心の中に誇りを込め、先人の道を進んでいく。

長、国土交通省の西田茂樹・自動車局旅客課新輸送サービスクンテスト対策室長が来賓出席。同協会顧問で前日本自動車連盟会長の田中節夫氏が乾杯の首領を取った。

懇親会には、警察庁の小倉隆久・交通局交通企画課長補佐、経済産業省の落合成年・商務情報政策局サービスクンテスト対策室長、国土交通省の西田茂樹・自動車局旅客課新輸送サービスクンテスト対策室長が来賓出席。同協会顧問で前日本自動車連盟会長の田中節夫氏が乾杯の首領を取った。